

## 国立大学法人香川大学学長の業務執行状況の中間評価結果について

令和3年3月3日  
国立大学法人香川大学  
学長選考会議

国立大学法人香川大学学長選考会議は、国立大学法人香川大学学長選考会議規則第4条第4号に規定する学長の業務執行状況の中間評価について、下記のとおり評価を行った。

### 記

#### 1. 対象期間

平成29年10月1日から令和2年9月30日

#### 2. 中間評価経過

- (1) 学長選考会議（令和2年11月30日開催）  
確認資料に基づく書面審査を行い、各委員からの意見を聴取した。
- (2) 学長選考会議（令和3年1月21日開催）  
各委員からの意見に基づく協議及び学長からのヒアリングを行い、加えて監事からの意見を聴取した。
- (3) 学長選考会議（令和3年3月3日開催）  
以下のとおり中間評価結果を策定した。

#### 3. 中間評価結果

学長選考会議は、「寛 善行」学長の業務執行状況は適正であるものと評価した。

寛学長は、平成29年10月の就任以降、教育においては創造工学部を起点としたDRI教育の全学展開を、研究においては国際希少糖研究教育機構を通じた希少糖研究の活性化を、更に、イノベーションデザイン研究所の設置による産学官連携と特別共同研究の推進を、それぞれ大学運営における施策の軸としており、その進捗状況は順調であることが確認できた。併せて、就任後、矢継ぎ早に、自身を支える学長戦略室の機能再編や事務組織の再編を行っており、ガバナンス体制をより強固なものとしている点も確認できた。

これまでの3年間にわたり、大学運営の諸施策を積極的に展開してきた結果、自身が就任以降一貫して注力している、大学の情報発信を含めた広報活動では、大学のホームページ及びYouTubeの訪問回数・視聴回数の飛躍的な上昇や大学のブランドイメージランキング（新聞社調査による）への上位ランクイン等も確認でき、着実に効果が表れているものと評価できる。更に、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の中、学生への緊急支援金給付の迅速な決定と実行、附属病院における医療体制整備等の対応に留まらず、コロナ禍を契機としたDX化への取り組み等、そのリーダーシップ及び発想は特筆すべきのものであると評価できる。

また、現在進行中の大学院改革においては、文理融合型の新研究科設置を目指して、自らが陣頭指揮を執っており、その教育内容、教育方法、設置科目等における明確な方針と共に、強固な決意を持って設置に向けた対応を行っていることがうかがえた。令和4年度の新研究科設置に向けて、引き続き、リーダーシップの発揮を期待する。

今後も運営費交付金の減少による財政面での苦難、コロナ禍による教育研究活動への様々な問題発生が予想されるが、更なる外部資金獲得、DX化推進等の施策により、安定的な大学運営を期待する。